

社会・援護局

Social Welfare and War Victims' Relief Bureau

地域共生社会を実現するために

Our Mission 困っている人の抱える悩みや課題を他人事にならない、皆で考える、「我が事・丸ごと」の地域共生社会の実現に向けて、暮らす・働く・支え合うための様々な取組を続けていきます。

部局の所掌分野

地域共生社会の実現へ

個人や世帯が抱える様々な生活の課題を「我が事」として受け止め、地域で「丸ごと」支えていく地域共生社会の実現を目指しています。

生活に困窮している方のために

最後のセーフティネットである生活保護制度と、生活保護に至る前の段階での自立を支援する生活困窮者支援制度により、重層的なセーフティネットを構成し、生活に困窮している方に寄り添い、自立を支援します。

社会福祉の基盤づくり

社会福祉法人の経営組織のガバナンスや財務規律を強化することや、福祉・介護人材を確保・養成することを通じて、福祉サービスを提供する体制を作っています。

様々な障害者施策の充実

障害のある方が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指します。居宅介護や就労支援等の障害福祉サービスや、精神医療の提供を推進し、制度改革にも取り組んでいます。



自殺に追い込まれない社会を

自殺者数は減っていますが、その割合は主要国よりも高い状況です。自殺は、追い込まれた末の死であり、防ぐことのできる社会的な問題です。社会的な支援により自殺を防ぎます。



【自殺対策白書】

戦没者の慰霊と遺族等の援護

戦没者の遺族や戦傷病者等に対する援護、遺骨収集等の慰霊事業、中国残留邦人等に対する支援、旧陸海軍の残務の整理等、戦争によって残された多くの問題の解決に取り組んでいます。

政策紹介 1

福祉の原点である生活に困窮する方に対する支援

憲法第25条に基づき、一人ひとりに何があっても最低限度の生活を保障しています。そのために、生活保護制度において、支援を必要とする方に確実に速やかに保護を実施しています。また、生活に困窮している方に対して生活困窮者自立支援制度において、仕事や家計、住まい等の生活全体を「丸ごと」考えた、より包括的な支援を行っています。一人ひとりが自立した生活を送ることができるよう引き続き様々な支援を行います。



KEY WORD

住まいの支援

住まいは、家庭を育み、地域社会とつながりを持ちながら生活していく拠点としての重要な役割があります。しかし、高齢者や生活に困窮している方が住まいを確保するに当たって、家賃が払えなかったり、保証人が確保できなかったりと様々な課題があり、福祉的な支援が必要となります。このため、国土交通省とも連携し、住宅行政、福祉行政を縦割りせず、必要な住まいが確保されるよう一体的に取り組んでいます。

KEY WORD

子どもの学習支援

「貧困の連鎖」を断ち切るため、生活困窮者自立支援法に基づき、生活保護受給世帯の子どもを含む生活困窮世帯の子どもを対象に学習支援事業を実施しています。学習教室や居場所づくり等の実施にあたり、地域資源の活用、地域の学習支援ボランティアや教員OB等の活用等、各自治体が地域の実情に応じ、創意工夫をこらした取組を行っています。平成29年度は、学校等の教育機関との連携強化を図ります。



政策紹介 2

退院後の継続支援

平成28年7月、神奈川県相模原市の障害者支援施設で、多くの方が殺傷される事件が発生しました。厚生労働省では、直ちに有識者や関係省庁とともに事件を様々な角度から検証するチームを立ち上げました。事件の検証の結果、精神保健に関して課題として挙げられたのは、精神障害により措置入院した患者が、退院した後でも医療や福祉等の支援を十分に受けられる環境を整備することでした。現在、措置入院した患者が退院後に地域で孤立することなく安心して生活できるよう、地方自治体や医療機関、障害福祉サービス事業所等が連携して継続的な支援を行っていく仕組みづくりを進めています。

KEY WORD

依存症対策

アルコール・薬物・ギャンブルなどを「やめたくても、やめられない」「ほどほどにできない」状態を依存症といいます。依存症は、本人や家族の健全な社会生活に支障を及ぼすため、依存症の相談・医療体制の整備、普及啓発等の対策を進めています。



政策紹介 3

戦没者の慰霊と遺骨収集、遺族等の援護

先の大戦では約310万人の方が亡くなりました。そのうち海外における戦没者は約240万人に及び、約60万柱のご遺骨が残されています。戦没者の遺骨収集は国の責務であり、戦没者のご遺族が高齢化する中で、一日でも早くご遺骨を返還できるよう、力を入れて取り組んでいます。毎年8月15日には、先の大戦で亡くなられた方を追悼するため、全国戦没者追悼式を天皇皇后両陛下ご臨席の下で挙行するとともに、先の大戦の記憶を次世代に継承するため、若年世代の語り部の育成等を行っています。

